

C ommunication
S DGs
R elationship

2020



CSR コミュニケーションレポート

株式会社 **アデランス**

トップメッセージ

グローバルウェルネスカンパニーの実現

次の100周年に向けて、毛髪・美容・健康・医療の「グローバルウェルネスカンパニー」を目指し、「世界のブランド アデランス」を実現してまいります。



男性用オーダーメイド・ウィッグの専門店として日本で創業した当社は、現在では、国内だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの海外でも事業を行う、男性用・女性用ウィッグ、毛髪移植、ヘアシステムなどのトータルヘアソリューション企業となりました。

活動地域は、現在19の国と地域となり、約6,300名の社員がグローバルな活動を広げています。それにもない、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。

また、先般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、アデランスグループに大きな試練をもたらす一方で、これからの時代に向けて変わっていくための機会であると考えます。

このような状況下でも、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という当社の創業精神を大切にし、「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役会長
ファウンダー（創業者）

根本 信男



株式会社アデランス
代表取締役社長
グループ CEO

津村 佳宏

経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は
毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて
世界の人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術と知識」
「心からのおもてなし」

沿革

アデランスは、1968年に男性用オーダーメイド・ウィッグ専門店として創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで、常に新しい価値を創造し続けてきました。

1968

男性用ウィッグ専門
「個人商店アデランス」を創業



1978

子どもたちに笑顔を
「愛のチャリティ」スタート



1979

型取り（フィッター）を開発



1980

全国技術競技大会を開催



1983

人工毛髪の研究開始



1985

文化芸能活動が大きく加速
スタジオAD誕生



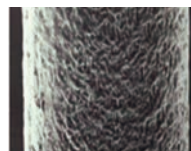
1986

アデランス・タイ社設立



1991

人工毛髪の商品化
「サイバーヘア」商品を発売



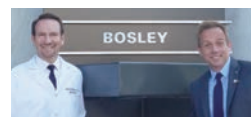
1999

タイ工場で
ISO9001/ISO14001取得



2001

米国毛髪移植のボズレー社を
グループ化



2002

病院内ヘアサロンの1号店をオープン



2009

ウィッグの回収と自然を結ぶ
「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」



2013

輝く女性への応援を開始



2015

世界初の国家基準化
医療用ウィッグJIS規格制定



2016

美容領域へ進出
ビューステージブランド誕生



2017

フォンテーヌの全国ロープレ・
スタイリング大会を初開催



アデランスグループの主な変遷

1969	アデランス社を設立 (1968年創業)	2001	ボズレー社をグループ化 1974年創業、ボズレー・メディカル・インスティテュート社 (1989年創業)、ボズレー・メディカル・カナダ社(1997年創業) を2001年にグループ化しボズレー社に統合、エム・エイチ・ アール社(1999年創業、2007年グループ化)	2013	ヘアクラブ社をグループ化 ヘアクラブフォーメン社 (1976年創業、2003年ヘアクラブ社と統合)
1985	フォンテーヌ社をグループ化 1970年創業 (2003年アデランス社と統合)	2002	アデランス・シンガポール社 アデランス・フィリピン社を設立 アデランス・ユーケー社をグループ化 トレンド・ヘア・サプライズ社(1964年創業)	2014	アデランス・ラオス社(現：ラオ・クオリティ社) を設立
1986	アデランス・タイ社を設立	2005	アデランス上海社を設立 アデランス・スウェーデン社をグループ化 カール・エム・ルンド社(1900年創業)	2016	ライツフォル社をグループ化(2003年創業) ハインネット社をグループ化(1960年創業)
1990	アデランス台湾社を設立	2009	アデランス・ヘア・グッズ社をグループ化 インターナショナル・ヘアグッズ社(1968年創業、1987年グルー プ化)、ルネ・オブ・パリス社(1971年創業、1989年グルー プ化)、ニュー・コンセプト社(1991年創業、1998年グルー プ化)、ジェネラル・ウィッグ社(1963年創業、1998年グルー プ化)、アデランス・リテイリング社(2001年創業)を統合	2017	アデランスメディカルリサーチ社を設立 アデランス香港社を設立
1992	ワールド・クオリティ社を設立			2018	アメコア・インダストリー社をグループ化 (1980年創業) エステティカ・デザイン社をグループ化 (2005年創業) アデランス・トータルヘアソリューション・ イベリア社を設立 アデランス・トータルヘアビューティ ソリューション(タイ)社を設立
1992	アデランス・フランス社、 アデランス・ドイツ社、 アデランス・ベネルクス社をグループ化 カムフレックス・フランス社(1952年創業)、ヴァン・ノイ エン社(1925年創業、1994年グループ化)、カムフレックス・ ドイツ社(1966年創業)、モンフェア・モダン社(1986年 創業)、カムフレックス・ベルギー社(1962年創業)				

会社情報

商号

株式会社アデランス
(英文名称: Aderans Company Limited)

本社

〒160-8429 東京都新宿区新宿一丁目6番3号

設立

1969年(昭和44年)3月1日

資本金

129億円

主要事業

毛髪関連事業、ビューティ & ヘルス事業、
グループ会社の経営管理ならびに
それに付帯する事業

取締役・監査役 (2020年6月1日現在)

取締役

代表取締役 会長 ファウンダー(創業者)	根本 信男
代表取締役 社長 グループ CEO	津村 佳宏
取締役 専務執行役員 海外事業本部、生産本部各担当	古川 政明
取締役 専務執行役員 国内事業本部担当	陰山 昌利
取締役 常務執行役員 管理本部担当	川口 喜八郎
社外取締役	高野 一彦
社外取締役	山本 礼二郎
社外取締役	山崎 壯
社外取締役	田中 宏司
社外取締役	山田 雅穂

監査役

常勤監査役	關 桂三
社外監査役	関 善之
社外監査役	品川 広志

コーポレート・ガバナンス

経営執行体制

当社は監査役会設置会社です。現行の経営体制は、社外取締役5名を含む取締役10名(うち女性1名)です。また、迅速な意思決定および業務執行体制の強化を図るために執行役員制度を導入し、取締役の他15名の執行役員を選任しております。(2020年5月現在)

取締役会は原則として月1回開催しており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しています。これと併せて、代表取締役、役付取締役、機能別担当取締役、執行役員で構成される経営会議を開催し、業務執行に関する重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化を図っています。

社外取締役

5名の社外取締役は社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から、取締役会において助言・提言を行うとともに、経営トップおよび取締役などと経営に関する意見交換を実施するなど、当社のコーポレートガバナンスが有効に機能することに寄与しています。

監査役・監査役会

監査役会は社外監査役2名を含む監査役3名で構成しています。監査役は取締役会、経営会議などの重要会議への出席、当社事業部門・管理部門への監査、国内外の子会社の調査などを実施し、経営への監視機能を果たしています。

クレド：社員自らが考えまとめた「おもてなしの心」の規範

お客様の満足と信頼を高めるために、当社が一丸となって取り組んでいる活動の一つに「クレド(CREDO)」があります。2009年、当社の社員自らが日本全国から集まり、お客様の満足とは何かを考え、全社員が共通の認識を持ち行動できるようにと、クレドをまとめ制定しました。さらに、日本で始まったクレドは、世界各地のアデランスグループにも広がり、創業精神である「お客様を想う心」は、世界中のお客様の笑顔に向かう姿勢となっています。



アデランスのクレド



米国ボズレー社のクレド



アデランス・ペネルクス社のクレド



アデランス台湾社のクレド

アデランスグループは、コンプライアンスの重要性を認識し、経営の透明性向上を重要な課題の一つであると考え、内部統制機能の強化・整備を図りながら、コーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいります。

社内ホットライン制度の運用



当社は、公益通報者保護制度に準拠して内部通報制度「社内ホットライン」を設置しています。アデランスグループ行動規範や社内規程・ルールへの違反、不正・違法行為、又はその兆候を速やかに把握して自律的に改善を行うために、上司を通じた業務報告ルートとは別に、内部通報のルートを設けたものです。社内の内部通報窓口とともに社外窓口（外部機関）で通報を受け付け、プライバシー・個人情報保護、通報による不利益な取扱いの禁止、調査結果などのフィードバックに関するルールを定め、厳格に運用しています。

違反等が生じた場合は適切な是正措置等を行い、その対応状況や結果はコンプライアンス・ガバナンス委員会で定期的に報告しています。

コンプライアンス研修の強化

当社は、社員のコンプライアンス強化の一環として、日常の実務に関連した項目について、eラーニングなどの方法で具体的な事例を挙げた研修を実施し、倫理意識や危機対応能力の向上を図っています。

研修内容例

- ・コンプライアンス
- ・リーガル
- ・リスクマネジメント
- ・行動規範 - お客様や社会に信頼されるために -
- ・反社会的勢力排除の基礎知識
- ・パワーハラスメント

お客様に満足いただけるサービスを提供するための教育制度

当社の取り扱う商品やサービスは、様々なニーズにより求められているため、お客様一人ひとりに寄り添った形で、「手を入れ」「思いを込め」提供する必要があります。

アデランスサロンでは、一対一にてブースなどで接客や要望に対し会社の代表として対応します。またフォントレースの多くのアドバイザーは、百貨店などに派遣され取引先の一員として店頭に立ちます。皆が同じ環境で働くわけではない為、アデランス社員としての心得を持つ必要が有ります。

それが経営理念の真の実行ですが、決して楽な道のりではありません。「最高の商品」と理解いただくには、自身が一流になる必要が有り、「最高の技術と知識」を提供するには、常にスキルアップに努めると同時に、

経営基盤のさらなる強化

当社は、組織力を高め、よりよい会社となることを目的に、2020年より社内特命プロジェクトを始動し、経営基盤の強化を図っています。

働き方改革 特命プロジェクト

社員がやりがいを持ち、安心して働き続けられる職場環境の改善・整備を実施し、仕事と生活の調和や効率的で質の高い働き方の実現を目指しています。

コンプライアンス・ガバナンス 特命プロジェクト

コンプライアンスの重要性を社内に浸透し、問題の早期発見、是正措置を図り、コーポレート・ガバナンスの充実に目指しています。

ESG・SDGs 経営 特命プロジェクト

CSR活動をSDGsの開発目標に結び付け、持続的な活動によって社会的課題の解決を図り、魅力ある企業としての実現を目指しています。

内部監査 特命プロジェクト

グループ各社の拠点における管理体制や業務を評価し、課題の早期発見、改善を目指しています。

コスト適正化 特命プロジェクト

コロナ禍を機に、これまでの業務内容、進め方を見直すことで、コストの適正化を目指しています。

評価適正化 特命プロジェクト、CS 特命プロジェクト

苦情ゼロの対策や職場環境の改善などによって、お客様の満足度の更なる向上を目指しています。



株式会社アデランス
パートナーズ事業部長
兼) CS教育部長
兼) ADトータルビューティアカデミー校長
藤生 善則

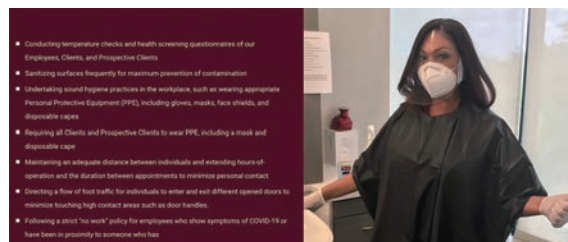
新型コロナウイルス感染症に対するアデルランスの取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に向けて

アデルランスグループの国内外の店舗では、各国の保健衛生指導を遵守し、店舗内の衛生管理および社員の体調管理を徹底しながら、感染症の拡大防止に努めた店舗運営を行っています。



国内での感染予防ポスター



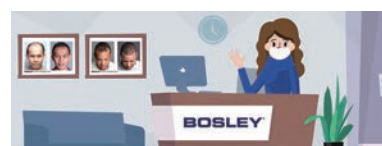
米国・ヘアクラブ社での感染症防止策



アデルランス・トータルヘアソリューション・イベリア社（スペイン）での感染症防止策



アデルランス・ドイツ社での感染症防止策



米国・ボズレー社での感染症防止策



米国・ボズレー社での感染症防止策

衛生管理商品の新発売

理美容師をサポートする「RiBiJo(リビジョ)」シリーズの新商品



手指用薬用消毒ジェル 消毒スプレー

理美容師の肌荒れに着目して開発した薬用消毒商品。手荒れは理美容業界全体の課題となっています。衛生関連用品が不足し、当初の予定よりも早めて発売。



マスクケース

衛生的にマスクを保管・持ち運びすることが可能。紙やプラスチックの代替となる新素材「LIMEX」を使用し、環境にも配慮した商品。



フェイスシールド

装着することで、粉塵や水滴等の飛沫が直接顔にかかることを防ぐことができる。透明板には防曇、消毒用アルコール腐蝕耐性を施した素材を採用。



『RiBiJo』キャラクター
「りび助」

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様、感染拡大により影響を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに早期の回復と一日も早い感染の終息を心よりお祈り申し上げます。

アデランスグループでは、日本そしてグローバルでの社会の安心・安全の回復に貢献するために、新型コロナウイルス感染症の対応策を進め、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

衛生管理商品の寄付

病院内へアサロンが入る全国の33病院の医療従事者に
手指用薬用消毒ジェルとフェイスシールドを寄贈



消毒液や防護具が不足しているなか、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に尽力されている医療現場を少しでもサポートしたいという想いから寄贈しました。



寄贈内容(2020年7月時点)

- ・手指用薬用消毒ジェル
計990個
- ・フェイスシールド
計3,300個

JHD&Cに手指用薬用消毒ジェルとフェイスシールドの寄贈



NPO法人JHD&Cについては18ページをご参考ください。

NPO法人JHD&Cでは、今なおウィッグを待ち続けているお子さまに少しでも早くウィッグを届けるために、5月下旬より活動を再開されました。各地から集まった寄付毛を1つ1つ丁寧に手作業で仕分けするスタッフの方々の感染対策として寄贈しました。

医療現場の最前線にいる医療従事者に支援物資を寄贈
(アデランス・フィリピン社)



ウィッグの製造などを行うアデランス・フィリピン社では、本社のあるクラーク経済特別区が進めている「Help Us Help Our Frontliners」キャンペーンに賛同し、マスクやゴーグルといった個人用保護具を、同区内の医療現場に寄贈しました。

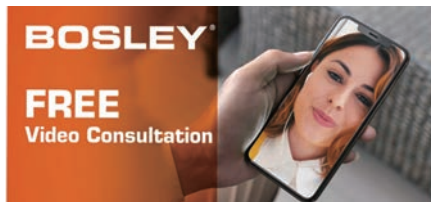
コロナ禍でお困りのお客様のために



医療用ウィッグなどの
無料メンテナンスサービス

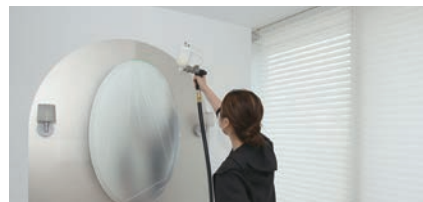
新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛により、ウィッグのメンテナンスができずに困っているというお客様からの声をいただいたことから、自宅にいながら無料(往復送料のみお客様負担)で、ウィッグのクリーニング等のメンテナンスが受けられるサービスを2020年6月より期間限定で始めました。

アデランスの商品だけでなく他社商品も含むウィッグを対象にしています。



テレビ電話を使った
カウンセリングサービス

米国エリアでは、店舗休業を余儀なくされましたが、店舗での対面相談の代わりに、Webのテレビ電話を使ったビデオカウンセリングを開始し、「対面よりも気軽に相談できる」とお客様にも好評をいただきました。ボズレー社では、2020年4月から7月までの4ヶ月で約7,000件のビデオカウンセリングを提供いたしました。



光触媒技術を活用した
店舗の抗菌衛生

グループ会社のパルメッセでは、昨今の衛生管理に対する意識の高まりを受け、抗菌・抗ウイルス・消臭などの効果が期待される光触媒技術を用いた衛生事業として、新ブランド「Hikarium(ヒカリウム)」を新たに立ち上げました。

アデランス、レディスアデランスの全サロンでは、光触媒技術を店舗室内に施し、衛生管理体制強化を行い、お客様が来店しやすい環境づくりに努めています。

国内事業

日本国内では、男性向け「ADERANS」、女性向け「レディスアデランス」「FONTAINE」のブランドを核に、時代とともに変わるお客様のニーズに対応しています。

アデランス事業

トータルヘアソリューションブランド アデランス

アデランスのサービスは、まず初めにお客様の髪や頭皮に関するご相談を丁寧に伺うところから始まります。お客様の悩みやご希望のヘアスタイルに応じて、お客様の髪の色や頭の形に合わせてつくる「オーダーメイド・ウィッグ」、自髪を活かして部分的に増やす「増毛商品」、頭皮環境を整える「育毛サービス」や最新の増毛技術「ヘアシステム」まで、お客様の魅力を最大限に引き出す商品・サービスをご提供します。また、定期点検やウィッグメンテナンス、ヘアカット、ヘアケアなど、アフターサービスも充実させています。(2020年8月末現在、全国165店舗展開)

ADERANS

「髪を増やす」「髪を育てる」という
2つのアプローチ



新增毛サービスの「ヘアパーフェクト」、自髪を活かして人工毛髪を結びつける増毛商品「ピンポイント」や「バイタルEX」、育毛商品「ヘアリプロ」まで幅広いラインナップ。米国ヘアクラブ社のシステムをアレンジした会員制定額プラン新增毛ヘアシステム「フリーダム」も発売。男性のあらゆる髪の悩みにお応えべく進化し続けています。

レディス アデランス

オーダーメイド・ウィッグから
ビューティヘア & スカルプケアまで

女性向けオーダーメイド・ウィッグブランドとして長くご愛顧いただいている「イヴシリーズ」は、グループで培った技術やノウハウをもとに、女性の髪のお悩みを解決し、おしゃれを楽しんでいただく商品をご提供しています。また、“大人のエクステ”として「ヘアアップα」や頭皮をケアしながら美しい髪を育む「ベネファージュ」シリーズも展開しています。



その他国内事業

医療事業

病院内にヘアサロンを35店舗(2020年8月末現在)開設。患者様の身体的負担を考慮した移動式理美容椅子を導入し、頭皮にやさしいヘアケア商品を使用した一般理美容サービス(シャンプー、ヘアカット)に加えて、医療用ウィッグ「ラフラ」をはじめ、ファッションウィッグを提供しています。また、患者様のQOL向上に貢献するため、メイクやネイルのご相談、及びグンゼ社の低刺激インナー「メディキュア」のご紹介を行っています。



美材ルート事業

全国の理美容室に向けて美容材料商を通じて、当社のレディメイド・ウィッグやオーダーメイド・ウィッグをお届けしています。また、化粧品店に向けて卸売を行い、一般のお客様へ、当社のレディメイド・ウィッグを販売しています。2020年9月より理美容室、病院・介護施設等、事業者向けに光触媒加工による衛生サービスの提供を開始しています。衛生管理体制強化のためレディスアデランス全サロンの店舗室内にも施しました。



通信販売事業

主に2つの柱を基軸にビジネスを展開。①EC直販サイトやダイレクト通販を中心としたBtoCビジネス、②TVショッピングなど通販会社向けに卸事業を中心としたBtoBビジネス。男性、女性向けヘアケア商品から美容機器、ウィッグまで幅広い商品ラインナップも特徴の1つです。



新型コロナを機に立ち上げた「衛生事業」 お取引先サロンの感染予防をサポート

2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、お取引先サロンでのお客様の来店が大幅に減少している中、その手助けができないかという想いで衛生事業をスタートしました。

お取引先での衛生モラルが必要としている施設や内装などの施工を中心としたサポートを行っています。今後は、美容サロンを中心に全国へとサポート範囲を広げています。



株式会社アデランス
美材ルート事業部
上席部長
高木 豊

フォンテーヌ事業

手軽に楽しめるレディメイド・ウィッグをバリエーション豊かにご用意

全国221の百貨店、直営店、大手流通チェーンで、レディメイド・ウィッグ(既製品)を提供しています。(2020年8月末現在)百貨店内の店舗、直営店「フォンテーヌ」では、人毛と人工毛髪をミックスして、ハンドメイドで仕上げた「ヴァラン」、個性豊かな色使いのスタイリッシュヘア「ロロック」、気軽にボリューム感をプラスする「トップピース」など、高品質でファッション性の高いレディメイド・ウィッグをご用意しています。

広がり続けるフォンテーヌブランド

より多くの女性にウィッグを楽しんでいただきたい。そんな想いからあらゆるファッションシーンで楽しんでいただくためのブランドを、多様な流通拠点から発信しています。また、近年は普段使いに気軽にご利用いただける「スワニーbyフォンテーヌ」、欧米を中心に海外の女性に愛されてきたウィッグブランド「ルネ・オブ・パリ」を大型スーパーやショッピングモールを中心に展開。さらに、エンターテインメント性を重視したパリ発祥のウィッグブランド「アニーダブレイ」も仲間入りし、ウィッグの楽しみ方を提案しています。

FONTAINE



スワニー Swanee by フォンテーヌ



ANY D'AVRAY CREATRICE DE CHEVEUX pour Aderans



国内グループ会社

ハイネット社



1960年に創業し、2016年にグループ入り。百貨店を中心に展開するレディメイド・ウィッグ「ハイネット」から10～20代向けファッション・ウィッグの「ナバーナ・ウィッグ」、ビューティ商材を扱う「ナバーナ・ビューティ」、おしゃれを彩るアパレルの「イベット」まで幅広く展開しています。

アデランスメディカルリサーチ社



2017年に設立し、グループ入り。医療機関向けの機器や医薬品などの販売及び、クリニック開業・運営支援並びにコンサルティング事業を行っています。

パルメッセ社

PalMesse

主に保険事業、美容・健康事業、衛生事業、不動産事業を展開しており、衛生事業では、光触媒技術を用いた抗菌・消臭などを目的とした商品・サービスを手掛けております。光触媒ブランドとして「Hikarium(ヒカリウム)」を展開し、衛生事業の強化・推進及び、光触媒の認知拡大、産業の発展に貢献していきます。



ライツフォル社



2003年に設立し、2016年にグループ入り。専属工場を持ち、主に女性用ウィッグ、医療用ウィッグの製造販売を行なっています。その他、ヘアサロン(美容ルート)へのご提案、WEB販売も行っています。

海外事業

各国のグループ会社においても、国内の取り組みと連動して「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、お客様の毛髪に関するニーズに対応しています。

北米での海外ビジネス

ボズレー社



ボズレーは北米市場における毛髪移植（ヘアトランスプラント）のリーディングカンパニーです。

ボズレー社は、北米市場でトップシェアを有する、毛髪移植における世界的な第一人者です。ボズレー社の毛髪移植は専門性の高い医師と医療スタッフによって行われ、後頭部または側頭部の頭皮から健康な毛包（毛根を含む組織）を切除し、薄毛部分に移植します。施術方法は従来からあるFUT^{*1}の他、メスを使わない施術方法FUE^{*2}が加わり、より患者様のニーズに合わせた施術を提供しています。2020年8月末現在、27のクリニックと42の相談室を展開しています。

*1: FUT: 毛包移植
(Follicular Unit Transplantation)



*2: FUE: 毛包摘出
(Follicular Unit Extraction)



アデランス・ヘア・グッズ社

アデランス・ヘア・グッズ社は、男性・女性向けのオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグなどの卸売・小売を展開しています。1987年にIHI社がアデランスグループの一員となり、サイバーヘア商品を米国にて販売するとともに、1989年のルネ・オブ・パリ社をグループ化後、女性向けファッション・医療用ウィッグ市場への拡大を図ってきました。現在では、米国でも有数の大手ウィッグメーカーとしてお客様に高品質のウィッグを提供しています。今後はさらなる成長に向け、既存ブランドの強化や新規商品の開発、販路の開拓を行っていきます。

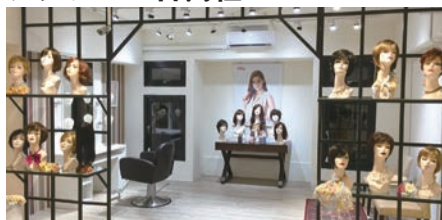
アジアでの海外ビジネス

アデランス・シンガポール社



2002年9月、現地法人を設立。同年10月にレディメイド・ウィッグを扱うフォーチュンウィッグス、2004年にサロンをグループ化。モールで展開するレディメイド・ウィッグ販売に加え、サロンではオーダーメイド・ウィッグ、増毛、育毛までトータルに提案しています。

アデランス台湾社



1990年1月、現地法人を設立。ヘアサロン機能を完備したオーダーメイド・ウィッグ、増毛や育毛サービスがメインのサロンを運営。2020年6月、台湾初となる病院内ウィッグショップ「誠品生活 亜東医院店」をオープンし、患者様を様々な面からサポートできる商品を取り扱います。

アデランス香港社



2017年4月、現地法人を設立。同年9月に、香港有数の商業地Causeway Bayに「アデランス Causeway Bay店」をオープンしました。サロン機能を併設しており、ウィッグのみならず、増毛から育毛サービス、美容機器まで提供しています。

アデランス・トータルヘアビューティソリューション（タイ）社



2018年9月、バンコクに現地法人を設立。同年11月に、サイアム高島屋内に「アデランス サイアム高島屋」をオープンしました。レディメイド・ウィッグ、オーダーメイド・ウィッグ、増毛商品を提供しています。

アデランス上海社

2005年12月、現地法人を上海に設立。日本同様にオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグを扱い、特に百貨店やモールでのレディメイド・ウィッグの販売に力を入れています。

重要度が増す海外事業をITの側面からサポート

アデランスは世界各国に子会社がありますが、それぞれに歴史、文化が異なるのと同様、ITシステムもバラバラです。

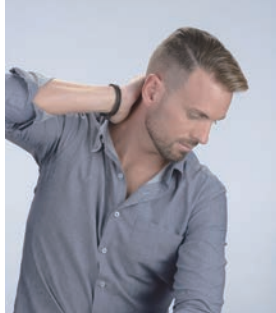
国ごと、会社ごとにどのレベルで統合をするのが最適か慎重に検討し、あるものは活かし、無いものは足し、改めるべきものは改めます。状況に応じてプロジェクトに深くかかわったり、時には大きな方向性だけ示し任せたりと本当に様々です。

今後、ますます海外の重要度は増していきます。情報システム部では、限られたリソースを最大限に利用し「世界のブランド アデランス」の実現、発展をITの側面から貢献すべく何ができるかを進めてまいります。



株式会社アデランス
情報システム部
部長
安生 浩

ヘアクラブ社



北米市場において
毛髪に悩む男性・女性向けに
総合毛髪関連事業を展開する
リーディングカンパニーです。

HAIRCLUB®

ヘアクラブ社は、北米市場におけるリーディングカンパニーとして、毛髪に悩む皆様に毛髪関連商品をご提供しています。細やかな気配りと高い実績、他社の追随を許さないサービス、さらにはグループ会社であるボズレー社と協働し(植毛顧客のボズレー社への紹介)、ヘアシステムや増毛商品などを中心とした幅広い商品を取り揃え、髪のお悩みやご予算、増毛方法など、お客様一人ひとりのご要望にお応えしています。2020年8月末現在、米国、カナダなどに120店舗を展開しています。

40年にわたり、毛髪に悩むお客様をサポートしてまいりました。経験豊富で優れたカウンセラー、美容師、施術スタッフがー丸となり、これからも信頼と実績を築いてまいります。

アメコア・インダストリー社 エステティカ・デザイン社

女性向けのレディメイド・ウィッグの卸売を行っています。特に、アメコア・インダストリー社はアフリカ系アメリカン市場に強みを持っており、さらなるシナジーを推進していきます。



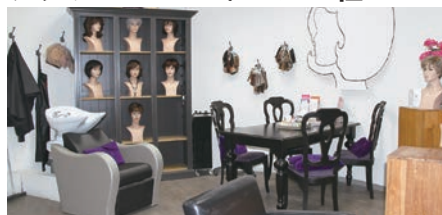
欧州での海外ビジネス

アデランス・スウェーデン社



スウェーデンでのウィッグの代名詞となった企業。国内のみならず、フィンランドやノルウェー、デンマーク等に輸出しています。病院内ヘアサロンを含む店舗の運営も行っています。

アデランス・ベネルクス社



オランダ、ベルギー国内の卸売および直営店での小売販売の他、オランダでは病院内ヘアサロンも展開。女性用ウィッグの分野では、オランダ、ベルギーにおけるファッションリーダー企業です。

アデランス・ユーケー社



ファッションウィッグやヘアエクステンション、その他毛髪関連商品の卸売・小売販売を行っている、英国におけるウィッグ販売の第一人者です。

アデランス・フランス社

1992年にヨーロッパで最初にグループ入りし、アデランスのヨーロッパ創業の地。ウィッグやヘアピース、毛髪関連商品の製造販売に加えトータルヘアソリューションのサロンを展開しています。

アデランス・ドイツ社

ウィッグやヘアピースなどをドイツ国内百貨店・直営店で販売。ドイツ国内外の卸売を行っており、医療分野にも進出しています。

アデランス・トータルヘア ソリューション・イベリア社

ファッションウィッグやつけ毛、その他毛髪関連商品をスペイン、ポルトガルに卸売しています。その他、小売店2店舗の運営も行っています。

拠点情報

現在、アデランスグループは、日本、北米エリア、欧州エリア、アジアエリアの世界19の国と地域で事業を展開しています。

活動エリア

(2020年8月末現在)

**BOSLEY
HAIRCLUB®**

北米
アメリカ
カナダ

ヨーロッパ
フランス イギリス
ドイツ スウェーデン
オランダ ノルウェー
ベルギー デンマーク
スペイン

アジア
タイ
フィリピン
ラオス
台湾
シンガポール
中国
香港

日本

**ADERANS
FONTAINE**

Aderans
爱 德 兰 丝
Aderans
爱 德 兰 丝

TREND CO. CREATING HEADLINES WORLDWIDE
ADERANS
BENELUX
CARL M. LUNDH
C.M.L. HAIRCENTER
by Aderans

グループ会社数

67 社

非連結子会社等を含む

店舗数 (2020年8月末現在)

国内	499 店舗
アデランス	165 店舗
フォンテーヌ	221 店舗
病院内ヘアサロン	35 店舗
その他	78 店舗
国外	305 店舗
アメリカ	190 店舗
アジア	37 店舗
ヨーロッパ	78 店舗

地域別社員数 (2020年8月末現在)

国内	2,711 名
国外	3,604 名
計	6,315 名

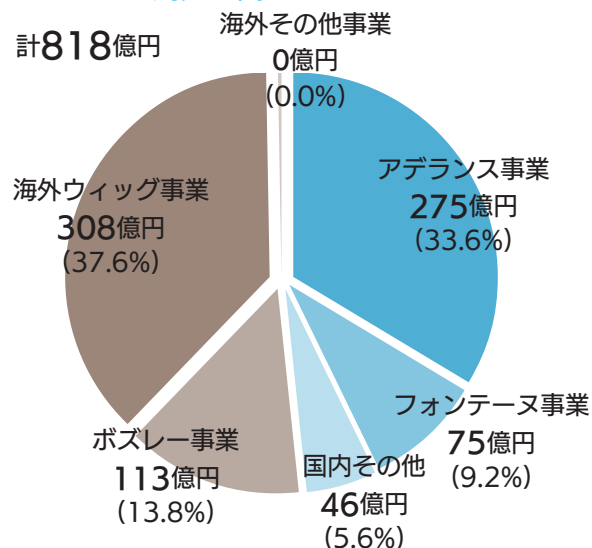
グループ会社に関する情報は下記の当社 Web サイトをご覧ください。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/company/group.html>

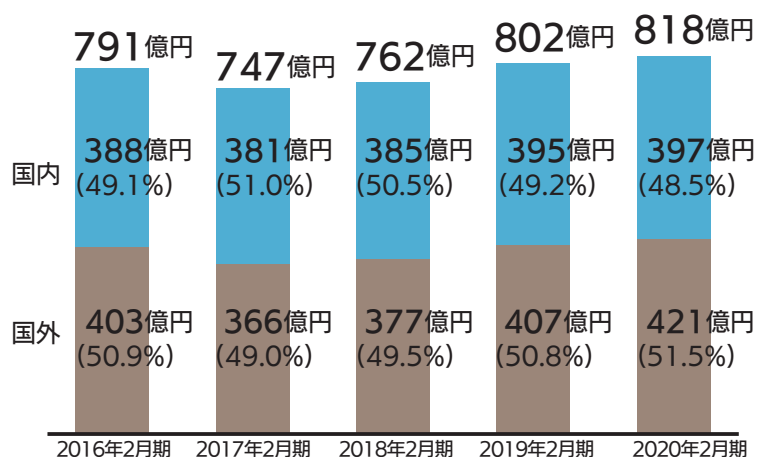
業績ハイライト

(連結ベース、2020年2月期)

セグメント別売上高



地域別売上高



※「国内その他」には、美材ルート事業、医療事業、EC事業、ハイネット社等が含まれています。

※記載金額は表示単位未満切り捨て、比率は少数第一位未満を四捨五入で表示しており、合計が一致しない場合があります。

グループ生産拠点

アデランスグループは、生産販売一貫体制のもと、タイ、フィリピン、ラオスなどにある自社工場及び提携工場において、熟練した技術者が繊細で高品質なウィッグの生産を担っています。

当社は、1986年のアデランス・タイ社設立を皮切りに、1992年にワールド・クオリティ社(タイ)、2002年にアデランス・フィリピン社を設立し、東南アジアでの生産を拡大してきました。

2012年9月よりラオスでの生産を開始し、2013年10月にはフィリピン第2工場を稼働しました。タイ、フィリピン、ラオスを三拠点として、お客様に高品質のウィッグをお届けしています。

現地従業員数 (2020年8月末現在)

アデランス・タイ社	463 名
ワールド・クオリティ社	229 名
アデランス・フィリピン社	781 名
派遣社員	472 名
ラオ・クオリティ社	32 名
派遣社員	857 名

*派遣社員：派遣会社と提携して工場内で就業している社員



アデランス・タイ社

1986年、ナワナコンに設立し、1988年にブリラム工場が稼働し、レディメイド・ウィッグの一貫生産、オーダーメイド・ウィッグの毛植え・ベース裏コーティング・検品、商品の修理業務も行っています。1999年にISO9001、ISO14001認証を取得しました。2009年に学校内への植樹活動、2012年に病院へのウィッグ寄贈を開始しました。



品質および環境マネジメントシステムの国際規格である ISO 認証を取得



ワールド・クオリティ社

1992年にタイのアユタヤに設立し、2001年から人工毛髪「サイバーヘア」(2012年APIへ移管)、2006年から人工毛髪「バイタルヘア」の生産を開始しました。2011年のタイ・アユタヤの洪水の被害を受け、2012年にサラブリ工場を建設し、移転しました。タイ、ラオスにおけるオーダーメイド・ウィッグの製造・物流窓口を担当しており、2015年にはISO9001認証を取得しました。

2017年には病院へのウィッグ寄贈を開始しました。



アデランス・フィリピン社

2002年フィリピンのクラークに設立し、男女オーダーメイド・ウィッグの製造および輸出を行っています。2012年から人工毛髪「サイバーヘア」の生産を行っており、2013年にオーダーメイド・ウィッグの毛植え工程専門工場として、第2工場が稼働を開始しました。2015年には教育部を設立し、新人教育や外注先の教育活動を行っています。



ラオ・クオリティ社

2012年に、新たな生産拠点として、ラオスのヴィエンチャン工場にて、オーダーメイド・ウィッグの毛植え工程の委託生産を開始しました。2017年に同工場を運営するラオ・クオリティ社をグループ化し、ワールド・クオリティ社から届く商品の毛植えをメインに行っています。また、職業訓練校と連携して、植毛科を開設し、雇用の創出を図っています。

アデランスのSDGs SDGsに基づいた新分類へ

アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、2030年までの実現を目標とする世界共通の目標「持続可能な開発目標（SDGs）」で掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs視点の新しい分類へ

CSR活動の4つの分野

アデランスグループは、2011年にCSRプロジェクトとして、商品企画から販売後のアフターケアまでの全事業プロセスをCSR視点から検証を行い、組織横断的に存在する社内の「社会的価値を持った活動」を掘り起こしました。そして、継続してきた期間、CSR視点からの重要度やその範囲から区分・一覧化をし、「社会・地域貢献」「お客様の安心・安全」「環境への取り組み」「学術・文化活動」に分類し、その価値を社内外に積極的に伝達してきました。

当社のCSR活動における特徴は、CSRに取り組むことの意義を「健全で永続的な企業成長を目指す。」と成長ドライバーとすることで、事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。

この方向性を最初の段階で示したことで、狭義での社会貢献活動に陥ることなく、創業理念の具現化や事業範囲の拡大と軌を一にしたダイナミックな活動へと進むことになりました。

2019年には、世界共通の目標「持続可能な開発目標（SDGs）」に向けて、アデランスグループが取り組むべき重要課題を特定すべく、SDGsとCSR活動の関連付けの作業を進めていきました。

従来のCSR活動の4つの分野 笑顔のために



「自社の強みを社会で生かす」アデランスのCSR活動の独自性

MDGs(Millennium Development Goals:ミレニアム開発目標)の後継目標として、2015年にSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)が国連で採択されました。

江戸時代から続く商人哲学である「三方よし:売り手よし、買い手よし、世間よし」といった考えを、企業理念として昇華したアデランスのCSR活動は、MDGsの時期から高い評価を受けていました。

「毛髪の悩みを子どもたちの心の傷にしないための愛のチャリティ」「病院内へアサロンに可動式理美容椅子を置くことで、自社の理美容技術を活かした誰もが利用することのできるユニバーサルデザイン環境」の実現など、「自社の強みを社会で生かす」といった独自のCSR活動は、MDGsの時期である2014年に、国連日本事務局から高い評価を受け、事務局の推薦により、CSR活動に真剣に取り組んでいる企業だけが加盟できる国連グローバルコンパクトの企業メンバーとなりました。

国連の後継目標であるSDGsに移行し、当社の責任は一層高まり、社会の期待に応えていきたいと思っています。



株式会社アデランス
上席執行役員
グループCSR広報室 担当
箕輪 睦夫

社内外に向けてアデランスの存在価値・存在意義を示す

現在、ESG・SDGs経営 特命プロジェクトのリーダーとして、SDGs達成に向けた取り組みを進めています。

アデランスでは、事業を通じた社会課題の解決を目指して、長きにわたり積極的に取り組んでまいりました。例えば、「愛のチャリティ活動」は1978年から開始し、40年以上続いています。また、「フォンテース緑の森キャンペーン」や、「アデランスサロンへの節水シャワーヘッド設置」など、環境保全を含めた様々な活動も営業現場の中で続けてまいりました。日本国内だけでなく、海外グループ会社でも、各社の強みを生かした独自の活動を行っています。

ESG・SDGs経営 特命プロジェクトでは、「アデランスの事業が成長することで、社会が良くなる」というテーマで、当社の事業活動を「社会的価値のある活動」として整理・再構築しています。私も、営業現場での経験を活かして、現場の活動をSDGsに繋げていく役割を担い、社内外に向けて、当社の存在価値・存在意義を示していきたいと思っています。



株式会社アデランス
e-ビジネス事業部
上席部長
徳永 輝行

今後の進め方

SDGs視点に基づいた活動体系へ

関連付けの作業を経て、アデランスグループが事業成長を続け、同時にSDGsが目指す持続可能な社会の実現を目指す、SDGsコミットメントの設定を現在進めています。

また2020年より、従来のCSR分類からSDGs視点に基づいた分類にすすめることにし、より関連性の高い目標策定を目指していきます。

今後は、SDGs達成に向けた2030年までの目標設定、新たなビジネス機会の創出といった取り組みを進め、未来に続く社会に向けた課題の解決に寄与し、アデランスグループの特徴が表れる経営の推進に努めていきます。

SDGs活動の4つの分野

ずっと笑顔でいられるために

健康の笑顔



社会の笑顔



地球の笑顔



未来の笑顔



SDGsとCSR活動の関連付け

組織内のSDGsへの理解を深める

2030年までの長期目標 「SDGsコミットメント」の設定

課題解決に向けた 新たなビジネス機会の検討

国内外での新たな領域への CSR活動の広がり

アデランスのSDGs

健康の笑顔

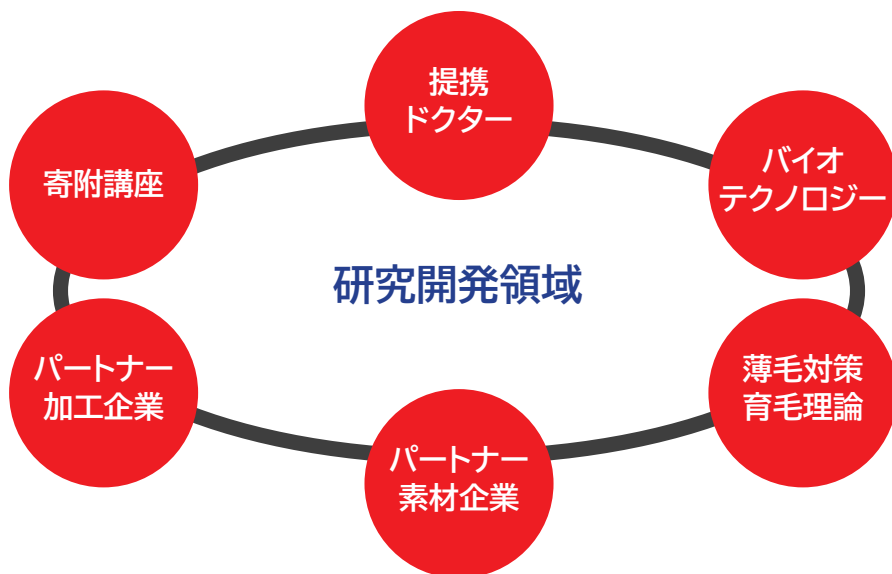
多くの人が健康であること

- ・毛髪周辺領域での潜在課題の解決
- ・毛髪を通じた健康課題の解決

基本的な考え方

アデランスグループは、トータルヘアソリューション企業のリーディングカンパニーとして、創業以来、様々な毛髪の悩みに向き合ってきました。世界各国で毛髪に悩む人々へ笑顔を届けるため、自社研究開発はじめ、大学との産学連携やパートナー企業との共同研究開発を積極的に推進し、画期的な人工毛髪や医療用ウィッグの研究、育毛・ヘアスカルプケア関連研究、抗がん剤脱毛抑制研究など、毛髪を通じた健康課題の解決を推進しています。

主に関連するSDGs



健康分野での外部団体との連携

ピンクリボン運動への協賛



当社は、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。ピンクリボンバッジを配布するとともに、「ピンクリボンマーク」スタンドを全営業店の受付に設置し、社員への意識づけを心がけています。2019年は、東京で開催されたピンクリボンスマイルウォークに9回目となる参加を行いました。

がんサバイバーのための「ヘルスケアアカデミー」のサポート



当社は、一般社団法人がんサーフィットネスが主催されている「ヘルスケアアカデミー」のサポートをしています。がんサーフィットネスは、「がんになったら運動しよう!」を合言葉に、体力作り支援・がん治療後の自己管理の支援といった活動をされている団体で、がん患者様を対象にした様々な種類の「運動教室」と、治療後の人生のQOLを向上するために自分の健康管理の方法を学ぶ「ヘルスケアアカデミー」を開催されています。

米国) 米国乳がん研究協会への寄付



ボズレー社は、2014年から年に1回米国乳がん研究協会へ一定金額の寄付を実施しています。ピンクリボン月間である10月の売上に応じた金額を寄付する方式で、期間中、社内はピンクリボンを象徴するピンク色に彩られたり、パソコン上に現状の寄付金額を表示したりと社員のモチベーションを高める工夫を施しています。現時点で12万5,000ドル以上を米国乳がん研究協会へ寄付しています。

英国)「The Little Princess Trust」を支援



アデランス・ユーケー社は、がんやその他の病気で髪を失ったお子さまに人毛のウィッグを提供している「The Little Princess Trust」を、2011年からサポートしています。同活動は、優れたボランティア活動として「Queen's Award for Voluntary Service」を英国女王から表彰されています。

2020年には、アデランス・スウェーデン社、アデランス・ドイツ社によるグループシナジー活かした支援を開始し、子供たちの日常生活をより明るく、少しでも楽にできるよう、取り組みの輪を広げています。

毛髪を通じた健康課題の解決

病院内ヘアサロンの展開



ターケア、抗がん剤治療に伴う副作用の脱毛時のご相談や外見支援のご相談により、患者様のQOL (Quality of Life) の向上に向けたサービスを提供しています。

医療接遇講習

病院を訪問させていただくスタッフ、患者様をお手伝いさせていただくスタッフには、医療知識などの講習を義務付けています。

外部専門講師による医療接遇講習は、VOL-NEXT 社(がん患者サービス事業会社)により実施され、2005年以降の受講者数は2,000名を超えました。

当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に関わり、その一環として病院内理美容室(ヘアサロン)を、2002年に開設し、現在では全国で35店舗となりました。

病院内ヘアサロンでは、一般的な理美容サービスのほかに、医療用ウィッグ及び他社商品のアフ

オーダーメイド・ウィッグ「健康増進機器」として認定

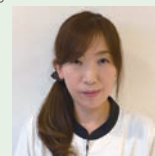
当社のオーダーメイド・ウィッグが、品質や安全性のほか、大阪大学との共同で取り組んだ「ウィッグ使用における心理的QOLの向上」に関する研究について、使用者の精神的満足が得られることは健康増進の目的に資すると評価され、2019年に一般社団法人日本ホームヘルス機器協会より「健康増進機器」として認定されました。



患者様の気持ちに寄り添うことの大切さ

今や日本人の2人に1人ががんになるといわれている時代の中で、実際に病院内ヘアサロンで患者様に接するということの大切さや責任を今まで以上に強く感じています。治療方法から薬剤、治療に伴う副作用、病気の不安に加え脱毛していくという複雑な心の変化や実際の体験などを医療接遇講習を通じて学び知ること、患者様おひとりおひとりの気持ちに寄り添うことの大切さを実感しています。

患者様の不安を少しでも和らげること、そのために私たちが出来ることは何か、何が必要なのかを常に考え行動しています。表情や心遣いひとつひとつに笑顔と思いやりを持って安心して過ごして頂けるように心がけて活動していきたいと思っています。



美容室こもれび
駒込病院店
涌井 えりか

患者様との懸け橋へ

医療接遇講習を受講し、がん患者様の複雑な心理と、そこに対峙すべく私たちの覚悟を問われ、患者様との面談時には、『一期一会』の気持ちで、真摯に行動しようと思うようになりました。

がん患者様を取り巻く環境は、常に変化を続けています。私自身も勉強を怠ることなく、医療機関との信頼関係を構築し、患者様と社会との懸け橋となり、努力し続けていこうと思います。



株式会社アデランス
医療事業部
中京オフィス
池谷 里美

さらなる課題解決の追求

大学等との産学連携

大阪大学：脱毛・発毛のメカニズムの解明



2006年4月より、大阪大学大学院医学系研究科に寄附講座を開設しました。日本における毛髪研究の第一人者である、大阪大学大学院医学系研究科の乾重樹特任教授を中心とした研究チームと脱毛・発毛のメカニズムの解明を進めています。

大分大学：抗がん剤治療時の脱毛予防



2013年11月より、最先端のがん研究を行っている大分大学 消化器・小児外科学講座の猪股雅史教授と、抗がん剤治療の副作用である脱毛の予防に関して共同研究を進めています。

東京工業大学：より美しく、より自然な人工毛髪



2014年12月より、紡糸工学およびプラスチック加工における世界的権威である東京工業大学物質理工学院 材料系の鞠谷雄士特任教授と学術契約を締結し、人工毛髪研究における共同研究を進めています。

「毛髪診断コンソーシアム」に幹事法人として参画



当社は、「毛髪診断コンソーシアム」に幹事法人として参画しました。「毛髪診断コンソーシアム」は、国立研究開発法人理化学研究所が構想提案し、2017年4月1日から2020年3月31日まで実施された共同研究プロジェクトです。

現在、当社では本コンソーシアムを原型とし健康維持、未病化、疾患の診断を対象とした計測機器開発や測定の高高度化などの研究開発を進めています。

毛髪周辺領域の課題解決

メイクを用いて「ルックスケア」に悩みを抱える視覚障害者の方々に応援したいという想いのもと、化粧パレット『BLINDMAKE UD パレット』を発売し、どんな方にも使いやすいユニバーサルデザインを採用しています。商品化にあたっては、一般社団法人日本ケアメイク協会で「BLINDMAKE」を広める活動を行う視覚障害者の方々と共同で開発を行いました。



アデランスのSDGs

社会の笑顔

健全な社会であること

- ・地域社会・コミュニティとの連携
- ・社会を配慮したユニバーサルデザイン
- ・働きがい・人財育成・ダイバーシティ&インクルージョン

基本的な考え方

アデランスグループでは、約6,300名の社員が、19の国と地域で国内約500店舗、国外約300店舗を中心に、グローバルな活動を広げています。国籍やジェンダー等を問わず多様な価値観や考えを持った社員が、個性・能力を最大限に発揮することで、新たな価値を創造し続けることを目指します。また、各拠点を通じた地域社会との共生を進めています。

主に関連するSDGs

働き方の多様性の推進
(国内)

- ・女性管理職比率：17.7 %
- ・育児・介護休暇等：19 名
- ・障害者雇用率：2.21 %

社員のスキル向上
(国内)

(2020年7月現在)

- ・理容師免許：399 名
- ・美容師免許：1,060 名
- ・理容師免許・美容師免許：33 名
- ・毛髪診断士：343 名
- ・認定講師：13 名
- ・認定指導講師：7 名

働きがいのある環境へ

社内教育の充実 技術競技大会の歴史



創業以来、社員の技術と知識を高めるため、研修の充実を図り続けてきました。また、全国の技術者を対象とした「技術競技大会」を1980年から開催し、競い合うことでお互いを高め、さらなる技術力の向上を図っています。

2018年には、創立50周年を記念し、「第1回世界ウィッグ技術競技大会」を開催しました。世界中のアデランスグループが一丸となって、さらなる技術力向上に努めています。

社内技術競技大会

ADERANS レディス アデランス

アデランス部門

主にオーダーメイド・ウィッグのアデランスのスタッフが「理容部門」「美容部門」で競う。

FONTAINE

フォンテーヌレディメイド部門

主にレディメイド・ウィッグのフォンテーヌのスタッフが「スタイリング部門」「ロープレ部門」で競う。

第5回ホワイト企業アワード「健康経営」部門で受賞



当社は、「がん罹患者就労支援に関する規程」の制定など、「がん」に対する取り組みが評価され、ホワイト企業認定制度を展開する一般財団法人日本次世代企業普及機構(代表理事:五味田 匡功、通称:ホワイト財団)が主催する『第5回ホワイト企業アワード』の「健康経営」部門を2020年3月に受賞しました。

当社は、「がん罹患者就労支援に関する規程」の制定など、「がん」に対する取り組みが評価され、ホワイト企業認定制度を展開する一般財団法人日本次世代企業普及機構(代表理事:五味田 匡功、通称:ホワイト財団)が主催する『第5回ホワイト企業アワード』の「健康経営」部門を2020年3月に受賞しました。

心身ともに健康で働きがいをもって働ける環境

今回「がん罹患者に対する就労支援制度」を評価いただきました。当社はがん罹患者にお客様へのサービスを提供しており、この受賞により、従業員に対する治療と就労の両立支援への取り組みについても広く知っていただくきっかけになったことをうれしく思っております。

経営戦略にて「健康経営」について「健康宣言」を掲げており、今後もお客様に健康と美容を提供する従業員が、心身ともに健康で働きがいをもって働くことができるよう、引き続き「ホワイト企業」にふさわしい職場環境の構築に取り組んでまいります。



株式会社アデランス
人事部
部長
八木 専吉

店舗等での取り組み

NPO 法人 JHD&C への協力



JHD&C
Japan Hair
Donation & Charity
Nonprofit Organization

病気などでウィッグを必要とするお子さまに無償提供している、NPO 法人 JHD&C (ジャーダック) への活動に、当社は賛同しています。

2015年3月には全国のアデランス店舗を頭のサイズの計測等の場として提供し、2016年4月からはウィッグ製作の協力も開始しています。また、2018年にはヘアドネーション支援自動販売機を社内に設置しました。

英国)「レディスナイト・チャリティ ファッションショー」開催



アデランス・ユークー社は、イギリスのブライトンで CSR イベント「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催しました。「レディスナイト・チャリティファッションショー」は、脱毛で悩まれる方が多くいることを広く社会に伝え、脱毛についてのサポートを呼びかけることを目的に開催したものです。

台湾) 障害者施設での無料ヘアカット



アデランス台湾社は、ボランティア団体からの呼びかけに賛同し、2012年から高雄市内で週に1回程度、障害者施設を訪問し、無料カットを行っています。2015年には、基隆市の美容室オーナーから要望があり、同市内でも始めました。この活動は社員の技術力アップにもなるため、今後も継続して行っています。

米国) Pay It Forward



ヘアクラブ社は、2000年に公開された米国映画「ペイ・フォワード 可能の王国」に感銘を受け、「厚意の輪を広げる」活動を2015年より開始。「Pay It Forward」は、慈善活動を通じて社員が地域社会に貢献することをサポートし、推奨するために作られたボランティアプログラムです。受けた厚意を相手に返すのではなく、周りの人に感謝の気持ちを広げていくことをテーマにしています。

生産現場での取り組み

タイ) 病院へのウィッグ寄贈



累計枚数2,294枚

2012年より、タイ工場での試作ウィッグを現地のタマサート大学附属病院・国立がんセンター等へ寄贈しています。また、2017年よりアデランス・タイ社近隣病院である県立ブリラム病院へも寄贈を始めており、患者様の QOL 向上をサポートしています。

タイ) 福祉支援自動販売機の設置



ワールド・クオリティ社は、貧困や障害に苦しむ子どもたちを支援する自動販売機を設置しました。自動販売機の売上の一部は地元の聴覚障害者支援学校や教育を受けられない子どもたちの支援に役立てられています。

フィリピン) 職場環境の充実度で表彰



2013年2月、アデランス・フィリピン社が、フィリピンの労働省から、社員(特に女性)に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、社員の家族に対して配慮されているとして表彰されました。

フィリピン) 社員や家族の健康や安全の取り組み



アデランス・フィリピン社では、「従業員と家族の福利厚生を考える会」「安全と健康を考える会」など、社員主導による取り組みを行っています。

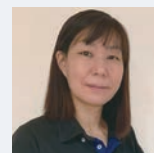
地域ボランティア: 笑顔を広げる

アデランスの生産工場のあるフィリピンには、社員のために会社に課されている規則がいくつもあります。その中の一つが、社員及び社員の家族の健康や安全を考える項目です。

活動自体は義務であるものの、その活動内容は会社によって自由に行うことができ、API(アデランス・フィリピン社)では委員会を設置し、社員の提案で進めています。

主な活動は、健康セミナー実施、寄付活動、家族計画の指導等があります。衣類などを寄付する活動では社員が協力して物を集め寄付先の施設入所者とふれあったりして、社員や関係者の笑顔がみられ、非常に重要な活動であると思い知らされます。

「APIで働けてよかったね」と家族が笑顔で送りだしてくれるような職場にできるよう、活動を続けていきたいです。



アデランス・フィリピン社
アドミン・アカウントマネージャー
城崎 陽子

アデランスのSDGs

地球の笑顔

地球が永遠に続くこと

- ・ 環境汚染予防
- ・ 環境負荷の低減
- ・ 資源循環型社会の実現

基本的な考え方

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応

や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、環境に配慮した活動に取り組んでいます。

主に関連するSDGs

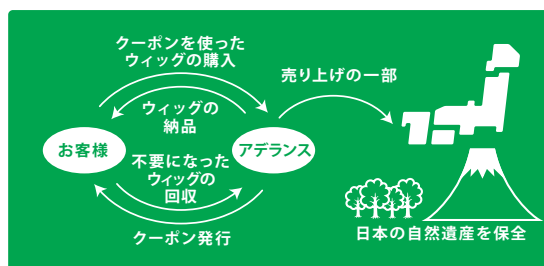


自然との共生

ウィッグの回収と環境保全を結ぶエコサイクル フォンテーヌ緑の森キャンペーン 2009年のキャンペーン開始から12年目

当社の主力商品であるウィッグは、約80%以上がポリエステル由来の人工毛髪で作られているため、お客様がご使用されたあと、家庭ごみとして廃棄されると、CO₂の発生が危惧されます。そのようなウィッグを回収して、当社が適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」です。

フォンテーヌ緑の森キャンペーンとは



フォンテーヌ店舗で、お客様の使われなくなったウィッグ（他社商品を含む）を店頭にお持ちこみいただいた際に、クーポン券（緑のクーポン）を進呈します。このクーポン券を利用することで、新たなフォンテーヌウィッグを購入いただく際に割引価格が適用されることに加え、お買上商品1点につき100円分を環境保全活動に還元します。



環境保全面積（累計）

2009年度：	406 m ²
2010年度：	1,813 m ²
2011年度：	2,063 m ²
2012年度：	2,531 m ²
2013年度：	3,469 m ²
2014年度：	5,013 m ²
2015年度：	6,825 m ²
2016年度：	7,875 m ²
2017年度：	12,459 m ²
2018年度：	22,776 m ²
2019年度：	24,083 m ²

環境保全面積は、植林の場合は植林本数に応じた面積、環境保全団体への支援の場合は当該団体の管理面積と当社からの支援比率をもとに、試算した累計値になります。

緑の森キャンペーンを全国規模に拡大 ～日本全国のエリアでの環境保全活動～

2009年に始まった「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」が、2017年より「緑と桜エコロジカルプロジェクト」として活動範囲が広がりました。

従来、山梨県での植林から、日本全国の自然遺産を保全する活動となります。日本の美しい自然を未来の子どもたちに残すため、全国規模の環境保全へと展開を広げていきます。

「緑の森キャンペーン」全国展開 第1弾
～NPO 法人 さくら並木ネットワークとのコラボレーション～

2017年より東日本大震災の被災地区への桜並木植樹を支援しています。3年目となる2019年からは、南三陸町の津波到達地点に植樹を行う「海に見える命の森」プロジェクトに参加しています。

「緑の森キャンペーン」全国展開 第2弾
～民間企業として初サポート

「静岡県立森林公園」でのアカマツ林再生活動～

2019年より「静岡県立森林公園」（浜松市浜北区尾野）でのアカマツ林再生活動への協力を民間企業として初めて開始し、2019年12月に社員らが初作業を行いました。



店舗での環境負荷低減

3D 型取りシステムを導入



2014年12月より、独自に開発した3D型取りシステムを店舗に導入しました。これにより、従来の頭髮測定で使用するフィッターを削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、環境にやさしい対応ができるようになりました。

従来フィッター使用数

導入前：41,884個(2014年度)
導入後：20,190個(2019年度)

LED を活用した店舗へ



「レディスアデランス」の店舗に、美術館のように多彩なウィッグを展示する「スタイル・ミュージアム」の導入を進めています。照明のLED化など消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを進めています。

節水用シャワーヘッドの導入



店舗に節水用シャワーヘッドを導入しています。このシャワーヘッドの導入により、水道水の節水や温水化するためのCO₂削減に効果を発揮しています。

導入状況(2020年7月末現在)

国内158店舗
1,311ブースに導入済み

環境に配慮したウィッグ廃棄



お客様がご利用になれなくなったウィッグは、当社が回収し、環境に配慮した適正な廃棄を行っています。産業廃棄物処理会社(J&T環境 川崎エコクリーン工場)と契約し、CO₂の削減に努めるなど、環境に配慮する形で進めています。なお、人工毛髪はポリエステルですが、塩ビを使用しないことで、焼却しても汚染物質の発生がしにくくなっています。

生産現場での取り組み

タイ)ウィッグ製作時の廃材の活用



ウィッグ製作の過程で、短い毛材、ネットの切れ端やドラム缶など再利用できない資材が生じています。アデランス・タイ社は、そのような資源を廃棄するのではなく、有効活用できないかと考え、造花、サンダルなど多種多様な試作に取り組み、展示用やプレゼント用に役立てています。

タイ)現地子供たちとの学校内植林



アデランス・タイ社が賛同する「TO BE NUMBER ONE」活動の一環として、子供たちに環境への意識を高める目的で、現地の学校の先生、生徒の皆さんと学校内植林を実施しています。この植林イベントは2009年から継続して取り組んでいます。

タイ)ISO14001の取得



ISO14001(国際環境管理規格)を1999年に認証取得し、次の活動を継続して実施しています。

- 1.工場排水による水質汚染の防止
- 2.工場内における空気汚染の防止
- 3.産業廃棄物の安全処理
- 4.有資源の効果的使用
- 5.工場内の労働環境改善



ISO取得を通じた社会からの信頼

ISOを取得している工場は、顧客から商品の品質が保証されやすく、環境及びお客様に対して優しい商品を提供しているといった信頼を得ることができると確信し、取得作業に取り組みました。

その当時、アデランス・タイ社の工場のあるタイ・プリラムは、ほぼ原野に近い状態で、環境基準に当てはまる浄化槽設備等を設置するための費用含め大変な作業でした。

ISOを取得し、商品がISO取得工場生産品としての優位性を併せ持つことができ、また、従業員の環境に対する考え方や地域貢献活動を行う事で社員教育に繋がりました。

信頼されるウィッグ工場を目標に掲げておりますので、今後もお客様と環境に優しい商品の提供を目指し、会社組織の品質活動や環境活動を継続していくつもりです。



アデランス・タイ社
社長
赤塚 均

アデランスのSDGs

未来の笑顔

明るい未来を広げること

- ・文化の発展
- ・持続可能な社会に向けた取り組み
- ・子どもたちへのサポート

基本的な考え方

近年、社会は大きく変化し、またその変化の速度も早まり、それに伴い社会的課題も複雑化しています。アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」があふれる未来の実現をめざし、当社の強みを活かせる領域での課題解決を通じて、未来につながる価値創造への取り組みを進めています。

子どもたちへのサポート

愛のチャリティ
1978年から続く
アデランスのCSR活動の原点



年度	贈呈数
2013	172 枚
2014	265 枚
2015	343 枚
2016	336 枚
2017	315 枚
2018	330 枚
2019	308 枚

主に関連するSDGs



当社は、1978年から「愛のチャリティ」を実施しています。これは「お子さまの髪の毛の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま（現在は4歳から15歳までが対象となります）が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年のものとなりました。2014年3月からは、従来のオーダーメイド・ウィッグだけでなく、レディメイド・ウィッグ（既製品）も、プレゼント対象に加わりました。

愛のチャリティ：ご家族の気持ちに寄り添う大切さ

子供を育てる母親として、病気と闘うお子さまの姿を見るのは辛いときもありますが、納品後に親御さまから近況を伺うたびに、お子さまの回復と成長に目頭が熱くなります。

しかし、嬉しいことばかりではありません。ご家族から悲しいご連絡をいただくこともあり、その都度、命の尊さ、大切さを実感しています。

お子さまだけでなく、親御さまへのケアも大切です。特に小さいお子さまの場合、髪が無いことをお母様が気にしている、お子さまも不安がってしまいます。親御さまの気持ちにも寄り添いつつ、細やかなフォローをできる限り行うようにしています。



アデランス東京本店
御園生 恵

サンタ・スマイル活動



クリスマスの時期に、自宅に帰れないお子さまのために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「サンタ・スマイル活動」を30年以上継続しています。2019年には全国31カ所の病院で実施いたしました。

タイ) 給食・教科書代を寄付



ワールド・クオリティ社は、工場の近くにある幼稚園、小学校に、給食および教科書・参考書の費用の支援を行っています。

米国) Hair Club For Kids



ヘアクラブ社は、「愛のチャリティ」と同様のサポート活動として、6歳から17歳の髪に悩む子どもたちにウィッグをプレゼントする「Hair Club For Kids」を行っています。1995年からスタートし、20年以上継続して提供しています。

米国) Toys for Tots



アデランス・ヘア・グッズ社は、「子どもたちにおもちゃを」という思いから「Toys for Tots」活動を2018年から行っています。クリスマスの時期、恵まれない子どもたちに、未開封の新しいおもちゃを配っています。1年間で220個のおもちゃをプレゼントしました。



撮影：山之上雅信

スタジオ AD ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団 ～エンターテインメント業界を支えて37年～

当社は、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。中でも文化芸能部門であるスタジオ AD は、日本を代表する舞台芸術・映像作品を手掛けています。

1983年にミュージカル『キャッツ』が劇団四季によって日本で初演されました。『キャッツ』の激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季

のヘアメイク・衣装デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。その後、当社独自の芸能用ウィッグは、『オペラ座の怪人』、『クレイジー・フォー・ユー』といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他多数の分野で芸能用ウィッグを、ご使用頂いております。

輝く人への応援 自分らしく生き、今を輝く女性の皆様を、毛髪・ウィッグを通じてサポート

タンゴ歌手・冨木 杏奈 様



冨木杏奈様は、タンゴ界において新しい感性の歌手として注目を集め、「世界が尊敬する日本人 100 人」(ニュースウィーク日本版)や「タンゴに貢献した 20人」(アルゼンチン)に選ばれ、タンゴ界最高峰の詩人オラシオ・フェレル氏からも「グラン・アルティスタ(偉大なるアーティスト)」と称賛を受けるとともに、世界各国で高い評価を得ています。

書道家・永田 紗戀 様



永田紗戀様は、女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多く、女性から支持されているアーティストです。近年はレッスンや講師の養成に力を注ぎ、現在は全国に30名もの認定講師を輩出しています。

五輪金メダリスト・ジョアンナ・ロウセル 様



ジョアンナ・ロウセル様は、ロンドン(2012年)、リオデジャネイロ(2016年)でのオリンピックで2大会連続金メダルを獲得した元英国自転車競技選手です(2017年3月に引退)。また、幼い頃にアロペシア(脱毛症)に患われ、髪の毛のほとんどを失われています。ロウセル様とアデランス・ユーケー社との出会いは、オリンピックのセレモニーで使用するウィッグを求めてロンドンのお店にいらしたときでした。また、ロウセル様の結婚式での、ウィッグをつけたロウセル様の写真が英国の人気雑誌「Hello」誌に取り上げられ大きな話題となりました。

未来に向けた取り組み

アデランスグループは、次世代の社会に向けて、持続可能な技術・商品の実現に取り組んでいます。

持続可能な社会を目指し新毛髪素材の共同開発を開始 Spiber社が独自開発する構造タンパク質を活用



アデランスと構造タンパク質素材の産業化に取り組む Spiber 株式会社(本社:山形県鶴岡市、取締役兼代表執行役:関山 和秀)は、Spiber 社が独自開発する構造タンパク質を活用した新毛髪素材の共同研究開発に着手しました。

Spiber 社では、地球規模の課題解決に貢献すべく、持続可能な次世代の基幹材料として注目される構造タンパク質の産業化に取り組んできました。

両社は、「構造タンパク質素材の活用」という点で気持ちを一つにただけでなく真の意味での人の幸せ、喜びに少しでも貢献したいと願う互いの姿に強く共感し、今回の共同研究開発に至りました。

人工毛髪の原料となる石油も限りある資源であり、今後100年を見据え、枯渇資源に依存しない新たな選択肢となる毛髪素材の創出を進めて参ります。

理美容業界の環境保全活動を促進 プラスチック代替や紙の代替となる、石灰石を主原料とした「LIMEX」のTBM社との協働

アデランスと環境に配慮した新素材「LIMEX」を開発・製造・販売する株式会社TBM(本社:東京都中央区、代表取締役 CEO 山崎敦義)は、理美容業界を中心とした環境保全活動促進のために、持続可能な社会に向けた協働を始めています。



「LIMEX」を使用した、衛生的にマスクを保管・持ち運びすることが可能なマスクケースを販売。

パートナーシップで世界が直面する様々な課題の解決へ

アデランスの皆様には、弊社の地球の資源、環境問題に立ち向かうソーシャル・プロジェクト「Bridge.」に協賛頂き、開発途上国においてマスクの確保が困難な一般市民の方々に寄贈する取り組みをご一緒して頂いています。自社の強みを活かし、「事業と一体化した価値創造型 CSR」を推進されているアデランスの方々と、素材、さらにはその循環型の仕組みや新たな価値観形成を通じてサステナビリティ革命を起こしていく弊社がパートナーシップを組むことで、SDGsの達成に貢献できる他、世界が直面する様々な課題を解決できることを確信しています。今後においても、両社の事業シナジーを創出し、持続可能な社会に向けて、進みたい未来に橋を架けるチャレンジすることを楽しみにしています。



株式会社TBM
執行役員 CMO
兼コーポレート・コミュニケーション本部長
笹木 隆之 様

ステークホルダー・ダイアログ

箕輪：本日は、アデランスのCSRの独自性・SDGsの親和性について先生方からお言葉を頂けたらと思います。

田中：当社のCSRの大切なところは、本業に根差したCSR活動をしているところです。本筋から言いますと、企業理念に基づいて、企業倫理の実践がひろく社会に貢献するという考えでCSR活動をしているわけです。SDGsというと国際的な目標なので、大きすぎて、企業が何をすべきなのかがぼやけてしまう。しかし企業が活動するときには、広げすぎると活動ができませんから、やはり企業理念に基づいて、本業を通じて活動をするというところに実りがあるわけです。当社のCSR活動は、「経済・社会・環境」の3つをきちんと踏まえ、本業に根差した活動をやっていますから、そこがSDGsにつながると、すぐにスムーズに実行できるところに当社の特徴があると思います。

箕輪：田中先生からは、初めてお会いした時に、「アデランスのCSR活動は価値創造型である」との評価をいただき、当社の活動の独自性を「価値創造型の戦略的CSR」と打ち出し、今日に至ります。そして創造する「価値」を当社の「強み」に見出すことで「自社の強みを社会で活かすCSR活動」といったように、当社のCSRの方向性を社内外に分かりやすく発信することができました。

高野：当社は、今まで社会課題を当社の強みによって解決してきました。病院内ヘアサロンの移動式理美容椅子や、先般の新型コロナウイルス感染症拡大での感染防止商品など、本業に根差して社会問題を解決するには、どうすればいいのかという発想からの結果です。多くの企業がSDGsとCSRをどう展開させていくか、模索しながらやっている中、当社は、今までと姿勢を変わず、本業に根差したCSR活動を続けていくことが大切だと思います。

箕輪：ありがとうございます。社内では、新たにESG・SDGs特命プロジェクトを立ち上げ、SDGsの17番目の目標である「パートナーシップ」に着目し、パートナー企業と一緒に価値を創り上げる「共創」を組み入れ、「価値共創型のCSR」を推し進めていくこととしました。そこで、活動の大きな目標としては、「アデランスが成長することで社会が良くなる。」を設定し、スローガンを「ずっと笑顔でいられるために」と改訂することで、「持続可能な成長」を確かなものとして目指してまいります。

山田：田中先生、高野先生がおっしゃったことにすべて同感・共感しております。あえてわたくしから申し上げることとしては、利益を伸ばすことにのみに焦点を当てる企業が多いのですが、当社の場合は完全に違います。私もかつてお客様側でしたが、髪に悩みがある方、病気によってつらい思いをしている方など、困難に直面され、十分なサポートがないまま社会から取り残される可能性がある方々に、当社のつくる商品やサービスで自信をつけてほしい、ずっと笑顔でいてほしい、という願いを込めながら、その方々が同じ社会の構成員として胸を張っていただけるようお手伝いをする。これが当社の唯一無二の企業価値であり、「誰も取り残さない」というのがSDGsの目標にも合致すると思います。

箕輪：山田先生とは、経営倫理学会のCSR部会で、「CSRとCSVの違い」についてディスカッションしたのが最初の出会いです。その後、「ダイバーシティ」について当社でご講義をいただき、「誰も取り残さない」という大事な視点を明確に示してくださいました。その時のご講義が当社のユニバーサルデザインを基盤に置く製品開発につながっています。

新田：先ほど先生方がアデランスのやっているサービス活動自体がCSR活動で、お客様のお悩みを解決するものだ、とおっしゃっていただきました。今回のコロナで店舗を休業するかどうかという問題に直面し、お客様のために社員の安全性を守りながら継続をしていこうと津村社長が決断しました。その時に私たちのアデランスのサービスは、お客様にとっても必要なものである、ということを感じました。お客様を衛生環境に配慮した場所で迎えたい、と真剣に衛生面を考え、感染防止策や光触媒による衛生化など、さまざまな対応をしました。これがアデランスが持っている企業風土だと思います。CSRを立ち上げる何年も前から、そのような思いに根ざした、さまざまな活動をやって、その活動をまとめる中で、私自身が深く感動しました。

高野：CSR広報活動で、2011年に箕輪上席役員が、過去の当社における素晴らしいCSR活動について、「笑顔のために」という冊子にまとめました。社員の皆さんは、それを読んで、プライドを持って働ける雰囲気や醸成され、それが会社混乱期の業績の回復につながったのではないかと考えます。



今回は、当社の社外取締役である田中宏司先生・高野一彦先生・山田雅穂先生を、外部の有識者としてお招きして、「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました（山田雅穂先生はオンラインでのご参加）。（実施日：2020年9月18日）

山田：これからのD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の時代において、利用者を配慮した取り組みが重要になってくるといえます。一般的にダイバーシティというと、弱い立場の人たちのためのものという捉え方をすることが多いです。とくに、福祉のサポートが必要になる場合、残念ながら「保護する対象」という理解がまだまだ根深く、日本の福祉器具や補装具なども、すべての人のための、かつデザインも素敵で胸が躍るような「ユニバーサルデザイン」というレベルまで到達していないというのが実情です。しかし、当社は、視覚障害者の方に加えて、すべての人に向けた『BLINDMAKE UD パレット』など、商品として素晴らしいものを作っていच्छる。

新田：50周年を機に、津村社長が、私たちの領域は総合毛髪企業から、美容・健康・医療のウェルネス産業へと広げていきたい、ということを確認に打ち出しました。津村社長が、ブラインドメイクを推進している団体の方と出会い、その日に「これが私たちが美容をやる意義です」と決め、そして視覚障害者向けのブラインドメイク商品を発売しました。これはすごいことだと思います。

田中：ひとつ私からお願いがあります。当社の活動が広がってきています。半年に1回ぐらい、当社がやっていることが、戦略と行動、SDGsの開発目標と関係づけるようなことをされるべきだと思います。あれもこれもと手広くなると、やっている人は夢中になっていますけれども、説明するときに説明が困難になります。この活動は、SDGsの面から見たら、ここと関連している、と関係づけを整理しておく、今後のCSR広報に効果があるのではないのでしょうか。

箕輪：田中先生のご助言に沿って、SDGsとの関連性を、年1回発行の「CSRコミュニケーションレポート」で明確に整理し、効果的に発信していきたいと思います。また、以前私がやっていたように、半年に1回は、全国の営業部をCSR担当者が巡回して、自分たちの声で、営業現場に伝えていきたいと思います。

高野：CSR部門の方が、各営業現場をまわり、自社のCSR活動について啓蒙していくことは、他社では聞かない取り組みです。かなりハードですが、社員の皆さんが「この会社で働いてよかった」と思い、モチベーション向上につながりますので、継続して取り組んでいただきたいと思います。

新田：ありがとうございます。こういった発信の必要性、そして、先生方が感じていただいた私たちの唯一無二の強みを言っていたので、うまく私たちがいい形で伝えられるところまで、皆様のお力も借りながら発信していきたいと思います。これからも、よろしくお願いいたします。



株式会社アデランス
社外取締役

田中 宏司

・一般社団法人 経営倫理実践研究センター
特別首席研究員
・公益財団法人 人権教育啓発推進センター
特任講師
・東京交通短期大学 名誉教授
・元 経済産業省・日本規格協会
「ISO/IR国内委員会」
「ISO26000JIS化本委員会」委員等
・企業の「CSR委員会」の社外委員等を兼務



株式会社アデランス
社外取締役

高野 一彦

・関西大学 社会安全学部・大学院
社会安全研究科
教授・博士（法学）
・日本経営倫理学会 常任理事
・一般社団法人 経営倫理実践研究センター
上席研究員
・NPO法人 日本経営倫理士協会 理事



株式会社アデランス
社外取締役

山田 雅穂

・中央大学総合政策学部
兼任講師 博士（人間福祉）
・経営倫理士・専門社会調査士

【専門分野】

障害者の雇用・就労政策、
福祉政策、経営倫理（Business Ethics）、
Diversity and Inclusion

（司会進行）



株式会社アデランス
上席執行役員
グループCSR広報室 担当
箕輪 睦夫



株式会社アデランス
グループCSR広報室室長
新田 香子

アデランスのCSR

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で持続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。

CSR 広報活動

アデランスグループのCSR活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

CSRラジオ放送「笑顔のつながり」



当社のCSR活動を1人でも多くの人々に知っていただくことを目的に、FMラジオを通じたCSRラジオ「笑顔のつながり」を2018年9月より放送しています。当社のCSR活動の考え方や4つの象徴的なCSR活動等をラジオパーソナリティの河村由美さんと共に紹介しています。

「おはようサンデー」毎週日曜日 朝7時～8時55分
 (「笑顔のつながり」は番組内8時30分～45分のコーナー(第1・2日曜))
 全国のコミュニティFM放送局にて放送

朝日地球会議に特別協賛

朝日新聞社主催の「朝日地球会議」に、会議の趣旨であるSDGsの考え方に、当社は深く共感し、2018年から3年連続で特別協賛しました。

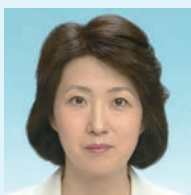


「朝日地球会議」は、国連が掲げた「持続可能な開発目標(SDGs)」への道筋を、国内外から招く政治、経済、科学技術分野の有識者やオピニオンリーダー、企業人と話し合う、朝日新聞社主催のイベントです。

「朝日地球会議」の理念と一致するアデランスの「持続可能な価値の創造」

朝日新聞社では持続可能な社会の実現に向けて、国際シンポジウム「朝日地球会議」を2016年から開催しています。アデランス社が創業以来取り組まれてきた「お客様の毛髪悩みを解決する」事業と一体化された様々なCSR活動は、社会課題解決のきっかけを探っていく「朝日地球会議」の理念と一致しています。

御社の様々な活動の取り組みを、今後も「朝日地球会議」の場などで発信して参りたいと存じます。



朝日新聞社
 イベント戦略担当補佐 兼
 フォーラム事務局マネージャー
 中村うらら 様

CSR活動もエンターテインメントも全ては「お客様の笑顔のために」

毎年3月11日に全国のコミュニティFMをつないで放送している『東日本大震災復興応援特別番組 KIZUNA station「笑顔のために」』で、箕輪さんにインタビューさせていただいたのが最初の出会いでした。現在レギュラーコーナーを月2回放送していますが、内容が充実しすぎていて毎回時間が足りません！

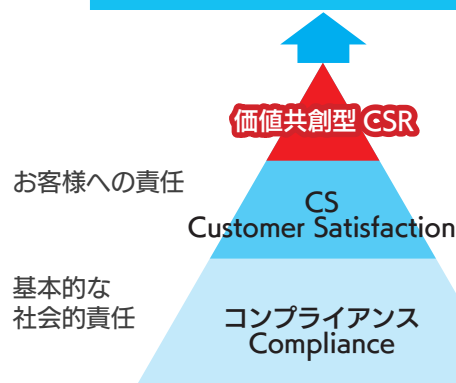
アデランス社の活動は、どの活動も“自社の強みを活かす”ことを徹底していらっしゃる点が素晴らしいと思います。これからも、たくさんの笑顔を支えて下さると信じております。ラジオのリスナーにもぜひその笑顔を広げてください！



ラジオパーソナリティ
 河村 由美 様

ミュージックバード『アデランス・笑顔のつながり』
 (毎月第1・2日曜朝8:30放送)ラジオパーソナリティ

事業と一体化した価値共創型CSR



講演回数	大学でのCSR特別講義	アナリスト・投資家向けセミナー	企業・一般向けセミナー
2011	1	1	0
2012	1	2	2
2013	8	3	11
2014	3	10	8
2015	2	7	9
2016	3	1	12
2017	2	3	9
2018	2	3	8
2019	10	2	3

書籍・雑誌



「渋沢栄一に学ぶ
 『論語と算盤』の経営」
 (同友館、定価1,980円)

全国の大手書店及び
 インターネット書店等で販売中

目次

会社紹介

トップメッセージ	1
沿革	2
会社情報	3
コーポレート・ガバナンス	3

特集：新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

会社紹介

国内事業	7
海外事業	9
拠点情報	11
グループ生産拠点	12

特集：アデランスのSDGs

象徴的な活動

健康の笑顔	15
社会の笑顔	17
地球の笑顔	19
未来の笑顔	21
ステークホルダー・ダイアログ	23
アデランスのCSR	25
目次など	26

企画・制作

株式会社アデランス グループCSR広報室
編集長 マネージャー 松岡博之

アドバイス・サポート：ツバルの森

本レポートの表紙について



「アデランスが社員とご家族、取引様とご家族、お客様、地域社会と一緒に、より良い社会を築き上げていく」イメージを毎回丁寧に伝えてくださるグループCSR広報室の皆様。私もその温かい言葉をアトリエでどれだけ表現しようかと集中して筆を持ちます。健康、社会、地球、未来、4つの笑顔を大切にしていきたいという具体的な想いも知り、わかりやすくその笑顔を指で重ねることができればとワクワクする気持ちで描いていくと、花束から生まれる笑顔たちが共創の文字からゆっくりと咲いていきました。社会は大きな変化に包まれた2020年。しっかりと時代に寄り添った内容がプラスされ、8年目となるこのお仕事を頂けたことへの感謝と、この冊子の中にある毎年変わらない、アデランスさんの優しい活動の軸を感じ、深い感動の花束が心に咲いています。

書道家
永田 紗戀 様



編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2020」発行にあたり

当社は、本書を当社の独自性を持った価値共創型の取り組みを開示し、ステークホルダーの声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。

今回より、「価値創造」から「価値共創」へと活動の領域を広げ、併せて、従来の「CSRコミュニケーションレポート」にSDGsの視点を取り入れ、Communication、SDGs、Relationshipの頭文字からとったCSRを基本とする内容に刷新しました。

本書をご高覧の上、率直なご意見や今後の当社に期待されること、ご要望などを頂戴できれば幸いです。

報告書の対象期間と範囲

対象期間：2019年3月～2020年2月

ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

発行日

2020年11月（年1回発行、次回発行予定：2021年10月）

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報を適切にお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSRレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



最新の活動状況、冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>

本書に掲載されている社名、団体名、商品名またはサービス名等は、各社・団体の商標または登録商標です。なお、本文等では、「TM」「®」は明記しておりません。



本書は、ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



当社の個人情報保護の取り組みは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より個人情報保護の体制や運用状況が適切であると認定を受けています。今後も個人情報の取得・保護における細心の取り扱いを徹底して参ります。



2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった価値共創型CSR」を積極的に推し進めています。



株式会社アデランスは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、SDGsで掲げられる、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。

外部団体および企業とのコラボレーション



JHD&C

Japan Hair
Donation & Charity
Nonprofit Organization

特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity
団体の活動に賛同し、計測等の場として当社店舗の提供やウィッグの製作をサポートしています。



～みんなでひとつになろう～

OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力/公益財団法人日本対がん協会、後援/JJ-CAN)の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



公益社団法人 日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士®の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士®は公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



一般社団法人 経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



一般社団法人 日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



公益社団法人 日本フィランソロピー協会

企業の社会貢献活動支援を核に、一人ひとりの社会参加・社会貢献への道筋をつけ、SDGsの掲げる「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向け、ボランティアや寄付による社会参加推進のための企画・運営をしています。



患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社による医療接遇講習を実施しています。



一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会

ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す国際ユニヴァーサルデザイン協議会の理念が、当社の事業の根底にある「弱者を置いていかない」という概念と一致し、同協議会の活動に賛同しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



特定非営利活動法人 さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



しずおか未来の森サポーター

「しずおか未来の森サポーター」として静岡県内の豊かな森林づくりをサポートしています。



Spiber株式会社

持続可能な次世代の基幹材料として期待される構造タンパク質素材の産業化を目指しているSpiber社と、新しい毛髪素材の共同研究を行っています。



株式会社TBM

紙やプラスチックの代わりとなる石灰石を主原料とする新素材LIMEXを開発する株式会社TBMと、地球の資源・環境問題に取り組んでいます。

- お願い -

- ・本冊子は、石灰石を主原料としたLIMEXを使用しています。
- ・本冊子の廃棄の際には、紙(古紙)のリサイクルやプラスチックの回収に混ざらないでください。
- ・本冊子の廃棄の際には、環境保全のため、お手数ですが、アデランス グループCSR広報室に送付いただくか、またはお近くのアデランス、フォンテーヌの店舗までお持ちください。回収・リサイクルし、LIMEX製品として再利用いたします。